

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077800110		
法人名	社会福祉法人 大川医仁会		
事業所名	グループホームあおぎり荘		
所在地	福岡県久留米市城島町804-3 (電話)0942-62-2150		
自己評価作成日	平成30年1月30日	評価結果確定日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は開設以来、地域密着型事業所としての理念に沿って、職員は地域住民の一員であるという事を自覚し地域との連携に力を注いできた。また、職員一人ひとりが利用者の生活の質の向上にむけてできることを常に考え業務に取り組んでいる。
更に、隣接する事業所と連携できる為、単独型の事業所と比較しても、柔軟性、多様性に富んだサービスの提供が実現できている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成30年2月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、筑後川流域の田園風景広がるのどかな、地域に密着した環境にある。同敷地内にはデイサービス事業所があり、事業所の行事や地域行事で連携している。近隣は交通量も少なく安心して散歩ができる。散歩の途中には地域の学生や住民とあいさつや声かけで交流している。事業所内は清潔に保たれ、季節感のある飾り物や各行事の写真などを掲示され、利用者の笑顔あふれる生活となっている。外出行事も充実しており、季節ごとの花見を楽しまれている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念であり、職員の目の届く場所に掲示すると共に、朝礼にて毎日唱和し、理念の共有と実践に努めている。	事業所の理念は職員が話し合い作り上げている。理念には地域密着の思いがあり、事業所内に掲示し、職員は毎朝の朝礼の時に唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の隣組に加入し、夏祭りや裸ん行、清掃活動などの地域行事に積極的に参加している。また、保育園の散歩時には来荘されたりするなど交流を楽しまれている。	事業所は町内会に加入し、清掃活動に参加している。地区名に「あおぎり荘」と命名され、町内の運動会では競技に参加しており、地域の夏祭りではバザーの出店もしている。利用者は保育園の卒園式にも参加し、園児に花束を渡したり、事業所の秋祭りに高校生や大学生の参加がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にも参加していただき、認知症についての理解を深めていただけるよう努めている。また、介護予防教室を行うなどの活動に取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域密着型サービス事業所運営推進会議を開催し、利用者の入退去状況や状況報告を行っている。また、会議に参加されている方々より、客観的な意見やアドバイスをいただいている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、家族、行政職員、地域住民の参加がある。会議では外部評価の報告や、地域行事の参加要請、感染症対応策などの指導を行っている。事故報告の検証を行って欲しいと要望があり、次回より実施する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス運営推進会議に久留米市の介護保険課や地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、状況の報告を定期的に行っている。また、入居の相談等があった場合は早急に対応できるよう心掛けている。	行政や地域包括支援センターへは、窓口で相談したり、会議や行事への参加案内状や事業所の広報誌を持参し報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理念を掲げ、内部研修にて身体拘束に関しての知識を深めるよう努めている。また、夜間を除き、玄関は施錠せず外出傾向がある利用者に対しては同行している。	事業所は日中玄関は施錠しておらず、職員は外出傾向がある利用者の把握をし連携している。毎日時間を決めて散歩を行うことで落ち着かれている。身体拘束をしないケアの実践に取り組み、内部研修で全職員が参加している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて心身両面の高齢者虐待防止についての知見を深めるように努め、利用者に対して敬意を持った対応を心がけている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内部研修にて制度について理解を深めている。	権利擁護に関する制度について職員は、相談があった際には説明できるようにしている。内部研修で学ぶ機会を設け、報告書にまとめられている。テキストやパンフレットが用意され、家族へ説明できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分に時間をとり、ご理解、納得いただいたうえで契約に至るように努めている。また、改定時などは文書にて同意、承諾をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟玄関にご意見箱を設置して匿名での意見を受け付けている。また定期的に利用者、家族の満足度調査を実施しているほか家族会や面会時などにご意見やご要望をいただく機会を設け、サービスの提供に反映できるように努めている。	利用者の意向の把握は日々の生活の中で聞き取ったり、嗜好調査で希望のメニューを把握し実現している。時代劇を見たいとの要望も反映させている。家族は運営推進会議や家族会などで交流し、地震に対する対応策など要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や、運営会議、経営委員会など、理事長や理事会、施設長まで職員の意見をスムーズに伝達できるシステムを構築している。また年に2回、担当理事との面談を行い職員からの意見を聞く機会を設けている。	管理者は面接時や会議の時に職員の意見を聴く機会を設け、不満を溜めないようにしたり、気づきや行事のアイデアや意見を言いやすいようにコミュニケーションを図ることで関係性を築き、運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護計画書を周知し、定めている目標を達成することでやりがいを感じれるように努めている。また、職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚や出産等の状況に応じた配置や勤務を行っている。給与水準においては、事業所の収支状況に応じて理事会に見直しをはたらきかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用については、性別、年齢等の制限は設けていない。また、資格取得などの自己啓発に努める職員については、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。	事業所には10代から60代までの職員が働いており、法人代表者や管理者は職員の募集や採用にあたり、年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。契約の更新をすることで定年退職後も働くことができる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人では、尊重する、という意味を込めて利用者の事を「ゲスト」と呼びし、日頃から人権の尊重を意識するように努めている。また、人権に関する研修を行い、啓発活動に努めている。	人権に関する研修は、内部研修に全員が参加し利用者に対する人権を尊重し、職員に対する人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務実績に応じた内容の研修を行い、職員の育成を図っている。また、出来る限り外部への研修にも参加できるよう心掛けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会などは積極的に参加できるように努めている。また日頃より他事業所を見学したり意見交換をする機会を持つようにし、サービス向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入所前にご本人と面談し、要望などをサービスに反映させることで不安の解消に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際は十分に時間をとり、ご家族の意見に傾聴することで、不安な点や疑問点をお聞きし、解消できるように取り組み信頼関係を構築できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にてご本人やご家族のニーズを把握し、事業所に求められている事を理解しサービスが適切に行えるように取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとって事業所は家である為、家庭的な雰囲気大切にしよう心掛けている。また職員は生活を共同する立場であるという事を念頭に置き利用者との関係構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の関係が希薄にならないよう面会時等に生活状況や心身状況等を定期的に報告している。またケアの内容についても報告、相談を行い支援に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊の支援は積極的に行い、ご家族だけではなく馴染の店などへも継続して行けるように支援している。	利用者の馴染みの人や関係はアセスメントで把握している。知人が訪ねて来たり、年賀状を送ったり、難聴の利用者に対しては、職員が代わりに電話を掛け関係が途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂を共有の場のメインとし、畳のスペースなども活用し、気の合う方と共に過ごせるよう配慮をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても利用者やご家族との相談も受け付けており、イベントの際などには案内をするなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思、意見を尊重するべく日常的に様子を観察したり、自己表現をすることが困難な利用者に対しては、家族からの聞き取りも充分に行うように努めている。	職員は入居時に生活歴や趣味等の情報をもらい把握し、ひとりひとりのお思いを大切に日々の支援に活かしている。意思疎通が困難になられても、ご本人が好きな事でふれあい、本人の表情や動作などから真意を汲み取っている。利用者の誕生会の企画は職員間で本人の気持ちを話し合い、またケーキ作りのアイデアを出し個別に手作りしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所に入所される以前の情報を、本人、ご家族、医療関係や介護事業所と連携しサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて課題整理、分析を行える事やできない事を明確化し、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するには、ご本人やご家族、主治医や関係者の意見を聴取し、現状に応じた計画書の作成に努めている。	利用者や家族の意向を大切に、担当者や関係者の意見・気づきを合わせて計画を作成している。6ヵ月ごと、毎月のモニタリングまたは状態変化に応じた計画の見直しを臨機応変に行っている。計画を見直した際は利用者や家族に説明を行い署名・捺印での同意をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを使用し、本人の状態、状況を介護記録や業務日誌に記録し、且つケアプラン実施表を活用しながら介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族のご要望にできるだけ沿えるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域の方との交流を行い、災害時などの協力体制の構築に努めている。また、ご利用者の希望によっては市役所や行きつけの美容院などへの外出支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ病院を継続して受診し安心した医療を受けられるように、情報提供、共有に努めている。看護職員を中心とし適切で迅速な対応ができるよう定期的を受診を行っている。	希望する医療機関への受審を支援している。職員と看護師が付き添い受診を行っている。受診結果はその都度家族へ報告し、情報を共有している。日頃から看護師との協働で、適切な医療がうけられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は申し送りノートなどを用い、気づきや疑問点などを報告し、必要時には迅速に受診、看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される際は、速やかに情報提供を行い、慣れない環境に動揺されないよう可能な限り面会を行うと共に、状態の変化を把握している。また、早期退院に向け医療機関との情報交換、共有に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所の看取りに関する指針を充分に行うと共に、重度化された場合を想定しご本人、ご家族の意向を聞きとるように努めている。	重度化や看とり介護の指針書があり、利用開始時に事業所の指針を説明し同意を得ている。重度化した場合や状況変化に応じて、主治医や関係者で話し合い合意を図り方針を共有している。本人と家族と一緒に泊まれる場所や食事の提供をするなど本人や家族が最期の時を有意義に過ごせるように取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署への依頼し全職員への救命救急講習の実施を定期的に行っている。また内部研修においても急変時の対応等実践力を身に付けられるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、昼夜を想定した避難訓練をそれぞれ実施しており。そのうち1回は運営推進会議の場を活用し民生委員や区長にも参加していただき災害時の協力を呼び掛けている。	災害時のマニュアルを作成している。消防署と地域住民の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。避難時の持ち出しの目録を作成し、非常用食料の賞味期限などのチェックも定期的に行っている。また日頃から職員間の災害対策の意識付けの徹底を図っている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意し合える環境を構築し、人格を傷つけないよう、親しみを込めた敬語で接している。	排泄時の声かけは、耳元に小声で周りに気付かれないように声掛けの配慮を行っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように支援している。定期的に内部研修に参加し意識向上を図り、利用者への言葉づかいや対応に活かしている。また関わりの中で気づきがあれば職員同士で注意し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の趣味、嗜好を把握したうえでコミュニケーションを図り、利用者の話しに耳を傾けている。また言葉だけではなく表情を読み取ることで自己決定の自由が損なわれないように配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な毎日にならないように利用者それぞれのペースや心身状況に応じた柔軟なケアを心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性や希望に応じて、身だしなみや髪型、装飾等できるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事をとりながら、家庭的な団欒づくりに努めると共に、味付けだけではなく見た目にも配慮をしている。	アンケートを行い利用者の嗜好の把握に努め、業者の献立・食材で栄養バランスに配慮し、四季折々の行事等に合わせ祝い膳を職員が手づくりしている。利用者の咀嚼や嚥下状態に応じて提供されている。本人の誕生日の当日に手作りケーキ・プレゼントを準備し利用者と職員でお祝いを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を確認しやすいようにチェック表を用いている。また、状態や病歴により食事形態を工夫したり、摂取量を調整している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に声かけや介助を行い口腔内の清潔を保持するように努めている。また、口腔ケア実施時に口腔内を観察し異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、それぞれの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。また、怪我などを防止する為、必要に応じて職員二人にて介助を行うなど工夫をしている。	オムツ業者を講師として招き研修会を開催し、オムツ類の安易な使用でなく利用者の排泄パターンをチェックし、間隔や排泄の兆候を見逃さず誘導を行っている。尿意のない利用者にもトイレでの気持ちいい排泄ができるように、また利用者の身体状況に合わせて安全面に配慮し2人体制で介助を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳の提供やラジオ体操、リハビリ体操を行い、薬に依存しない自然排便に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は出来る限り一人ひとりの希望に応じて行っている。また、入浴の拒否などみられる場合は時間を置いたり、対応方法、職員を変更したりして気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。	午後からの入浴と大まかな設定はあるが、毎日入浴や好みの湯加減等、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。一人ずつの入浴で菖蒲湯や入浴剤を使って雰囲気を変えたりして入浴が楽しめるように工夫している。入浴拒否の利用者には無理強いをせず職員間の連携で、利用者がゆっくりと気持ちよく入浴していただけるように取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの日頃の生活習慣により午睡を取り入れたりしている。夜間に関しても、入眠時間は決めず、個々に応じた時間にて入眠していただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬される種類や作用、副作用を把握し、変更がある場合は、変更の理由を周知し、状態の変化に注意を払い、医療機関への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の心身の状態に応じて、日常生活の中でできる掃除や洗濯物たたみなどを職員と共に 行う事で役割を感じていただけるように努めている。また、それぞれの趣味や楽しみ事を把握しレクリエーションなど個別に取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて施設外を職員と共に散歩をしたり、地域の行事に参加するなどしている。また、同敷地内のデイサービスのリフト車にて四季折々の花見などに出かけている。	身体的に外出できる利用者が少ないが隣接のディのリフト車で外出を行っている。毎月1回の頻度で四季折々の花見見物やドライブなど、戸外に出かけるよう努めている。家族の協力で自宅や外出に出かけられるように支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と話し合い、基本的にはトラブル防止の観点から金銭は施設預かりにて対応しているが、希望がある場合は、リスク管理を行った上でご自身にて管理していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望される時に電話ができるよう支援している。また、手紙や年賀状を送る場合は職員が代筆などの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や採光、整理整頓などに心がけており、居心地が良い空間づくりに努めている。また、行事、季節ごとの写真を飾り季節感を感じていただけるよう工夫している。	共有空間は明るく清潔感があり、室温も適切で畳の間に炬燵があり家庭的な雰囲気に設えてある。利用者の車椅子での移動や利用者同士の関係性に配慮してテーブルやソファの配置がなされ、ゆっくりと過ごせるように工夫されている。お雛様やつるし飾りなどの春を迎えるお飾りは長寿祈願や縁起物としての伝統飾りから職員の利用者への優しい心遣いを感じることができる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮するなどして快適に過ごしていただけるように座席を配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や寝具、身の回りのもを持ち込んでいただきできる限り環境の変化を感じさせないように配慮している。また、配置に関しても心身の状況に応じて家具、ベッドの位置を検討し、安全且つ安心して過ごしていただけるように努めている。	居室の入り口に手作りの表札を掛け、室内は本人の使い慣れた布団・タンス・屏風・仏壇・ソファ・時計・洋服掛け等馴染みの物が持ち込まれ、その人らしく安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。また豪華な花・イベント時の写真・本人の結婚写真を職員がレイアウトを施した素晴らしい思い出の写真等が飾られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの残存機能に応じて、居室内の手すりや介助バーの設置、畳の使用など環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念であり、毎日の朝礼時に唱和している。また、目の届く位置に理念を書いた紙を掲示し意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の隣組に加入し、夏祭りや裸ん行、清掃活動などの地域行事に積極的に参加している。また、保育園の散歩時には来荘されたりするなど交流を楽しまれている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にも参加していただき、認知症についての理解を深めていただけるよう努めている。また、介護予防教室を行うなどの活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域密着型サービス事業所運営推進会議を開催し、利用者の入退去状況や状況報告を行っている。また、会議に参加されている方々より、客観的な意見やアドバイスをいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス運営推進会議に久留米市の介護保険課や地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、状況の報告を定期的に行っている。また、入居の相談等があった場合は早急に対応できるよう心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的に行い、身体拘束の非道徳性を全職員に対して周知徹底を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての内部研修を定期的に行い、知見を深めるように努め、利用者に対しては敬意を持った対応を心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行い、制度の理解を深めるよう取り組みを行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分に時間をとり、ご理解、納得いただいたうえで契約に至るように努めている。また、改定時などは文書にて同意、承諾をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟玄関にご意見箱を設置して匿名での意見を受け付けている。また定期的に利用者、家族の満足度調査を実施しているほか家族会や面会時などにご意見やご要望をいただく機会を設け、サービスの提供に反映できるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や、運営会議、経営委員会など、理事長や理事会、施設長まで職員の意見をスムーズに伝達できるシステムを構築している。また年に2回、担当理事との面談を行い職員からの意見を聞く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護計画書を周知し、定めている目標を達成することでやりがいを感じれるように努めている。また、職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚や出産等の状況に応じた配置や勤務を行っている。給与水準においては、事業所の収支状況に応じて理事会に見直しをはたらきかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用については、性別、年齢等の制限は設けていない。また、資格取得などの自己啓発に努める職員については、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>当法人では、尊重する、という意味を込めて利用者の事を「ゲスト」とお呼びし、日頃から人権の尊重を意識するように努めている。また、人権に関する研修を行い、啓発活動に努めている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務実績に応じた内容の研修を行い、職員の育成を図っている。また、出来る限り外部への研修にも参加できるよう心掛けている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム交流会などは積極的に参加できるように努めている。また日頃より他事業所を見学したり意見交換をする機会を持つようにし、サービス向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>必ず入所前にご本人と面談し、要望などをサービスに反映させることで不安の解消に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学、申込みの際は十分に時間をとり、ご家族の意見に傾聴することで、不安な点や疑問点をお聞きし、解消できるように取り組み信頼関係を構築できるように努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にてご本人やご家族のニーズを把握し、事業所に求められている事を理解しサービスが適切に行えるように取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者にとっては「自宅」となる為、家庭的な雰囲気になるように努めている。また、生活を共同する職員は、ご利用者との信頼関係を構築できるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの内容等についてご家族に報告や相談を行いご利用者とご家族の関係が希薄にならないようにしている。また、面会時には普段の様子を報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の支援は積極的に行い、面会に関してもご家族のみならず馴染の方にも足を運んでいただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席にも配慮し気の合うご利用者同士で過ごしていただけるような環境作りに努めている。また、寝たきりの方の居室にも職員と共に訪室し声かけ等行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても利用者やご家族との相談も受け付けており、イベントの際などには案内をするなどしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人から希望や意向が確認できる場合は本人より聞き取り、サービスに反映している。困難な方に関しては、生活歴などを参考にすると共にご家族の意向を取り入れながらサービスを提供している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況を把握するために、ご本人やご家族、医療機関、または利用されていたサービス機関から情報収集しサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや毎月のモニタリングにて課題整理、分析を行いできる事、できない事を明確化し現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、ご本人やご家族、主治医や関係者の意見を聴取し、現状に応じた計画書の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを使用し、本人の状態、状況を介護記録や業務日誌に記録し、且つケアプラン実施表を活用しながら介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族のご要望にできるだけ沿えるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域の方との交流を行い、災害時などの協力体制の構築に努めている。また、ご利用者の希望によっては市役所や行きつけの美容院などへの外出支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ病院を継続して受診し安心した医療を受けられるように、情報提供、共有に努めている。看護職員を中心とし適切で迅速な対応ができるよう定期的に受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は申し送りノートなどを用い、気づきや疑問点などを報告し、必要時には迅速に受診、看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される際は、速やかに情報提供を行い、慣れない環境に動揺されないよう可能な限り面会を行うと共に、状態の変化を把握している。また、早期退院に向け医療機関との情報交換、共有に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所の看取りに関しての指針を充分に行うと共に、重度化された場合を想定しご本人、ご家族の意向を聞きとるように努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署への依頼し全職員への救命救急講習の実施を定期的に行っている。また内部研修においても急変時の対応等実践力を身に付けられるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	久留米市の風水害の出張出前講座を年1回実施している。また消防署立会いの下、昼夜を想定した訓練を実施しており、夜間の避難訓練は運営推進会議の場を活用し、民生委員や区長にも参加していただき災害時の協力を呼び掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時など基本的な部分から、居室で過ごされている場合などご本人のプライバシーを損なわないように支援している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントをもとに、ご利用者の趣味趣向を把握したうえでコミュニケーションを図り、言語、非言語を活用し自己決定が損なわれないように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状況に応じたケアを心がけ、個人の希望や生活リズムを尊重し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のご希望や個性に応じた身だしなみやおしゃれを意識していただけるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事をとり家庭的な団欒作りに努めると共に、味付けだけでなく見た目にも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食や減塩食、嚥下状態、既往に応じた食事形態で提供し、1日の食分量、水分量をチェック表に記載し状況の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じて口腔ケアの用具を選定し、誤嚥性肺炎の防止、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、それぞれの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝9時の牛乳の提供や運動、ラジオ体操などにて薬に頼らない自力排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は出来る限り希望される時間に入っているように配慮し、精神状態により拒否が見られる際は、対応をかえたり時間を置いたりし、気持ちよく入浴していただけるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活リズムを把握し、本人の希望する就寝時間で夜間気持ちよく水音をとっていただけるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の作用、副作用を全職員が把握している。薬の変更等があれば様子観察し注意を払っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や御家族から趣味や特技などの情報を収集し、ご本人にとって生きがいのある生活を送れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出の支援を行い、希望に応じて個別に散歩などの支援を行っている。また、ご家族にも出来る限りの外出の支援を働きかけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には施設で管理しているが、自己管理の希望がある場合はご家族にリスクを説明した上で、個人管理にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度、湿度に十分に注意を払い居心地が良い空間づくりに心がけている。また整理整頓や採光にも気を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかで楽しい気持ちで過ごせる様に、食堂の座席の配置には注意を払い、気の合うご利用者と過ごせる様に配慮している。また、自室にて過ごされる場合は出来る限り介入せず自由な時間を過ごしていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、外出時や誕生日会の写真を飾ったり、自宅で使用されていたものを飾ったりし出来るだけリラックスできる空間づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体状況を配慮し、介助バーや手すりの設置を検討し残存機能を活かした安全な生活が送ること出来るように努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない